

■令和四年十二月に文部科学省から「生徒指導提要」が出され、個別の課題として「生命の安全教育、性的被害者への対応」「性的マイノリティに関する理解と学校における対応」「精神疾患に関する理解と対応」「学則の運用・見直し」の4つがポイントとして挙げられました。これは、私見によると、「GIGAスクール構想」において「子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業」「二人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能」「各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる」という、一人一台末端と高速大容量通信ネットワークを前提にした、生徒個人をよりクローズアップさせた方向性と連動しています。また、新しい指導要録の参考様式に観点別学習指導状況の記載欄がもうけられ、評価の充実が求められ、これも生徒一人一人に対してより手厚く対応することが求められています。更に、OpenAIが発表した対話型AI「ChatGPT」が注目を集めています。このソフトは、人間からの質問に対して非常に自然に受け答えできるためさまざまに活用でき、科学論文を書くための使用を国際会議が禁止するといった規制の動きも見られています。そして、Microsoftの検索ブラウザに数ヶ月以内に搭載されるとの情報もあります。

これにより、一人一台末端が行き届き、ペーパーレスが推進される、Microsoft Teams や Google Classroom 等で生徒一人一人の探求的な学習までも「観点」とに把握しながら、「ChatGPT」等には対策

を立てるといふ状況が予想されます。

このような伝統的な授業形態の変換点にさしかかっている中、「探求的な学びとICT」を特集できたことは、多くの注目を集めることができるのではないかと思います。

■次集の特集は「現代の国語」と「言語文化」です。投稿は「1. 郵送による投稿（当日必着）」と「2. 専用フォームによる投稿（当日一七時締切）」の2種類です。詳細は学会のホームページを参照ください。会員のみなさまからの玉稿をお待ちしております。
<http://www.waseda.jp/assoc-w-kokukyou/posthtml>

■本誌刊行発刊にあたり、学会代表である堀先生、編集委員の新井先生、後藤先生、五味渕先生、豊田先生、福家先生ほか、事務局の石上先生、國部氏、張氏には貴重なご助言とご尽力を賜りました。心より御礼を申し上げます。（工藤哲夫）

早稲田大学国語教育研究 第四三集

二〇二三年三月三〇日発行

発行所 早稲田大学国語教育学会

代表 堀 誠

東京都新宿区西早稲田一―六―一

早稲田大学 教育学部内

振替 〇〇一六〇一―一八五二七番

印刷所 株式会社 研恒社

東京都千代田区九段北一―一―七